

貸切バス利用・弾丸下見会 箱根スペシャル！（小田原発着）

2024年9月26日(木)



昨年に引き続き、箱根にフォーカスした「弾丸」下見会を実施しました。参加者は27名(正会員 22名、非会員5名)で、17名の方は、前日の富士山スペシャル！と2日連続の参加でした。案内役(伊藤淳子・正会員)1名、委員1名と合計29名で貸切バスに乗り込み、08:40に小田原駅新幹線口を出発。17:40に小田原駅に到着解散するまでの9時間をフルに使って、貸切バスで効率よく箱根を探検しました。地元神奈川県(7名)を含む関東周辺在住の方はもちろん、福岡、兵庫、大阪、奈良、宮城など各地からご参加がありました。ベテラン勢あり、これから箱根のバスツアーに挑戦する人あり。エリアも経験も言語(7言語)も異なる参加者同士の交流の場ともなりました。「お客様の気持ちがあった」との感想もありました。

コースは小田原駅～(小田原城天守閣車窓)～国道1号線～彫刻の森美術館～箱根ロープウェイ(早雲山⇒大涌谷)、大涌谷、箱根ロープウェイ(大涌谷⇒桃源台)、桃源台ターミナル(海賊船乗り場)、湖尻港(車窓)、箱根園、駒ヶ岳ロープウェイ、箱根神社、徒歩で元箱根～杉並木～関所跡～丸山物産(箱根寄木細工実演)、畑宿(浜松屋・箱根寄木細工実演、一里塚)、箱根新道～小田原駅。

箱根に数多い美術館のすべては網羅できませんが、箱根だけのツアー、宿泊してのツアー、などにも対応できるよう、芦ノ湖周辺だけでなく、地形・景色・富士山・乗り物・史跡・アート・寄木などさまざまなポイントから箱根を下見しました。

美術館を代表して、訪日客がまだ少なかった頃から評価が高い彫刻の森美術館へ。今日は相模湾までのぞめる晴天。お客様にお勧めできる楽しみ方、写真のスポット、気に入りの作品は見つかったでしょうか。今年リニューアルした足湯もチェックしました。



今回の下見会では、箱根ロープウェイと駒ヶ岳ロープウェイの両方に乗車しました。まずは箱根ロープウェイに早雲山側から乗車。ケーブルカーと接続する早雲山駅からの眺望、大涌谷にさしかかる際の迫力ある景色(富士山は見えるか！?)を体験して、大涌谷へ。箱根温泉供給株式会社の蒸気井、地滑り対策の砂防施設、噴煙地、富士山の方向と写真撮影場所、バスと乗用車の駐車場、黒たまご。自然研究路が2015年から立入禁止(2022年より予約制の引率入場のみ可)となったため、大涌谷の過ごし方・滞在時間も変わりました。ここ数年では、箱根ロープウェイの料金体系、黒たまごの値段も変わっています。再びロープウェイで大涌谷→桃源台へ。山頂までは見えないものの、富士山の見え方の変化を地形とあわせて確認しながら下って行きます。見下ろす大涌谷への道路は、今日は渋滞なし。桃源台では海賊船のチケットを買う列、乗船の列、特別船室の乗船列、バスの待機場所を確認。すぐ近くの芦ノ湖遊覧船の湖尻港(閉鎖中)も眺めました。





駒ヶ岳山上は芦ノ湖側の展望ポイントが工事中。視界が刻々変わる中、約 30 分の滞在で箱根神社元宮まで行けるか元気に実証する参加者多数。ロープウェイ駅舎近くの富士山の写真スポットは知らなかったという人も。駒ヶ岳ロープウェイと箱根ロープウェイのそれぞれの良さ、設備の違い、眺めの違いはもちろん、ツアーのオペレーション上の違いをシミュレーションする機会ともなりました。

箱根園では慌ただしく軽食を仕入れたり、湖畔の一本桜、芦ノ湖遊覧船乗り場、食事場所などをチェックしたり。トイレ行列も。ロープウェイも山上も人が少なかったですが、駐車場には訪日客の観光バスが続々と入ってきます。



遊覧船から眺める赤い鳥居が印象的な箱根神社にもバスで立ち寄り。美しいけれど急な石段を前に、「上がったなら何があるの?」とお客様の気持ちも分かるような…。湖中の鳥居での撮影には待ち列ができています。

その後、元箱根から箱根町の箱根関所までを今度は徒歩で下見しました。食事場所、芦ノ湖遊覧船と箱根観光船(海賊船)の乗り場、「富士山と鳥居」の撮影ポイント、セブンイレブン(ATM)などを確認してから、旧東海道杉並木へ。

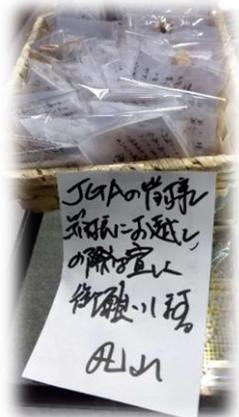


「入鉄砲に出女」の箱根関所や、東海道をどうコンパクトに説明できるか考えるうちに、関所が現れます。通り抜けるのは自由。江戸口から京口へ無事に抜けました。湖畔の道からは、箱根海賊船の箱根町港、芦ノ湖遊覧船の関所跡が望めます。

JGA の賛助会員であり、新人研修でもいつもお世話になっている箱根寄木細工の専門店、箱根丸山物産は関所のすぐ近く。お客様向けに実施している寄木細工の実演解説をガイド向けの解説入りで見学しました。木材や技法の説明、完成品を見ただけでは想像できない、鉋で薄く削るところの実演。さらに、伝統的な秘密箱に加え、オリジナルのからくり細工が次々に披露され、歓声が上がります。参加者からは質問も多数出ました。箱根を代表する伝統工芸ですが、短時間でも実演を見て説明を聞くことで、評価がまったく違うものになることを実感しました。



手彫り・手描きの達磨さんをお土産にいただきました。



寄木細工に興味があったところで、最後は寄木細工発祥の地と言われる畑宿を訪ねました。旧街道で甘酒茶屋、ヘアピンカーブの続く七曲がりを通ります。浜松屋で再度、実演と解説をお願いして、寄木の模様の造り方、薄く削る(ズク)ものと無垢で加工するもの、木象嵌など、手法を学びました。

山中には石畳の道も保存されており、希望者はかけ足で一里塚も見物しました。



須雲川 IC から箱根新道に乗り、奥湯本の温泉街を見ながら下りていきます。道中では、小田原駅から新幹線に乗る想定でのシミュレーションも。小田原駅に予定通り到着。ドライバーさんにとってもお疲れの一日でした。参加者それぞれ言葉を交わしながらバスを下りました。

富士山&箱根、鎌倉&箱根、箱根日帰り、宿泊しての朝から箱根観光、宿への送りや駅送迎など、さまざまな形でご案内することが多い箱根。訪問先や宿や食事場所、天候や時間などに応じて、どこから入って、どう回って、どこから出るか、色々な組み合わせが考えられます。そこを意識しながらの下見会でした。船は乗らず、ミュージアムは1箇所にしぼりましたが、他は主要な場所をすべて含み、主な移動ルートもだいたい走りました。渋滞や混雑時のこと、時間帯による違い、悪天候の場合、団体バスの場合・公共交通機関の場合など、案内人はもちろん、参加者も積極的に経験や情報を交換していました。「行って見て体験するのが自身になる」「自分のやり方を見直す機会になった」「箱根の色々な可能性がわかった」「忙しかったが効率よく回れ、凝縮していた」などの感想が寄せられました。

今回の下見会では、挙げる皆様のご厚誼を賜りました。感謝申し上げます。(順不同・敬称略)
彫刻の森美術館、箱根ロープウェイ、箱根園(箱根駒ヶ岳ロープウェイ)、箱根丸山物産、浜松屋